

2024年以降 医師転職は大きく変わる！？

科目・地域別分析





転職市場の動向が気になる医師の皆さまへ

医師の転職市場について、過去からの変化を見ながら
この先どうなるのか、どのように対応していくのがよいのか
医師の転職支援歴20年の日本メディカルキャリアが徹底解説いたします！

【目次】

- 医師転職市場の歴史
- 医師転職市場の変化
- 医師転職市場予測
- 医師転職市場の変化への対応
- 医師転職市場が変わっても生き残るためには



医師転職市場の歴史【1990年～2000年代】

医師が転職活動をする際、人材紹介会社を使うことはわずか…
人材紹介会社を使って採用活動を行う医療機関も多くなかった

※現在、300社以上あるとされている医師向け人材紹介会社も、当時は数社程度だった（当社調べ）



転職活動で医師が面接に落ちるのは稀な時代

医師転職市場の歴史【1990年～2000年代】



医師の特徴

- ・ 医局を抜けて転職することは珍しい
- ・ 卒業後は専門性を突き詰めていくのが主流

当時は現在よりも
家族の反対を受け
転職を辞める
医師も多かった
(※当社調べ)



外部環境

- ・ インターネットやメールはまだ普及していない時代



医療機関から求められる医師

- ・ 年齢問わず採用検討可能
- ・ 専門医の有無は問わず一定の経験があれば相談可能

当時は転職支援の手段は
固定電話か手紙が主流

医師転職市場の歴史【2000年代～現在】

医師向けの紹介会社が次々にできる
医師が転職活動をする際、紹介会社を使うことも選択肢の一つになる
医療機関も紹介会社を複数利用し、様々な先生とお会いする機会が増える



キャリアの選択肢が増える一方
医療機関が医師を選ぶケースも



医師転職市場の歴史【2000年代～現在】

医師の特徴

- ・ 医局以外にも勤務先の選択肢が増える
- ・ 医局内で出世を目指さない医師が増える

外部要因

- ・ 臨床研修制度がスタート（基本的診療能力を求められる流れ）
- ・ インターネットの普及により訴訟・社会的リスク増加

医療機関から求められる医師

- ・ 専門特化よりも幅広く診療ができる医師
- ・ 患者、スタッフとのコミュニケーションに長けた医師
- ・ 集患への意欲のある医師

医療機関の採用意識の変化

【1990年～2000年代】

銀行出身の採用担当者が多い
採用が大前提
費用対効果は重視しない
実名求人

⇒
⇒
⇒
⇒

【2000年代～現在】

紹介会社出身の採用担当者が多い
無理に採用しないケースも
費用対効果を重視
匿名求人

就任されてからのことも考え
より慎重に採用を検討する医療機関が増加



医師転職市場の変化

2024年から医師の働き方改革もはじまり
新たな転職市場の動きや変化が現れる可能性は高い

医師の転職支援歴20年日本メディカルキャリアは 今後も医療機関が医師を選ぶケースは増加すると予想

市場の変動について全体、エリアと科目の視点から予測をご説明します

全体

エリア

科目

医師転職市場の変化 —全体としての予測—

求人総数は変わらない

役割分担が更に進むため施設形態によって異なる変化が
【病院】 役割分担や病院の統廃合が進むため求人が減る
【クリニック】 かかりつけ医としての役割から求人が増える

プライベートの時間もとれる求人が標準に

医師の働き方改革により働きやすい職場環境の整備が進んでいく

医師の年収が大幅に下がることはない

年収を下げることで退職する医師が増える可能性が大きい

医師転職市場の変化 —エリア：都市部—

【現状】 都市部に応募が集中している



**【今後】 引き続き応募は集中し競争激化
医師が選ばれていく傾向が高まる**

- ・ 医師の人口密度の高いエリアについては、相場から逸脱した年収は出ない
- ・ 接遇や患者・多職種とのコミュニケーションがより重視される
- ・ 専門性があると高額な給料がでる可能性が高まる
- ・ 開業はさらに厳しく、差別化を図らなければ集患が厳しくなる可能性も
(365日診療・時間外診療など)

医師転職市場の変化 —エリア：郊外—

【現状】 募集を出しても集まりにくい



【今後】 集まりにくいいため、条件交渉の余地が増える可能性も

- ・ 高年収を求めるのであれば郊外という選択肢も
- ・ 病院の設備が整っているケースも意外に多い
- ・ 子育て支援など手厚いケースも多い
- ・ 僻地の場合、長期雇用ではなく、〇年契約など短期雇用が主流になる可能性も

医師転職市場の変化 —科目別の動向—

訪問診療

高齢化率が、2025年には約30%、2065年には39%となる予想のため
今後まだまだ需要が高まる見込み

内分泌代謝内科

ニーズがあり、開業もしやすい科目
若手医師からも人気があるが医師数は多くいるため競争率がさらに高くなる

医師転職市場の変化 —科目別の動向—

外科系

外科系専攻の医師数が減っているため外科系医師求人数は増加

→ 医局関連も医局に頼れなくなってきたためますますその傾向は高まる

整形外科

今後さらに高齢者が増える日本の社会ではニーズも増える予測

→ 特に郊外エリアの場合、手術を含む求人が増える傾向が高まる

医師転職市場の変化 —科目別の動向—

小児科

少子化とは言われているが、
子供の多い中心部近郊の人口が多いエリアではさらに需要が増える予測も

皮膚科・耳鼻科

もともと募集の数が少ないが、さらに求人数が減ることが予想される

医師転職市場の変化への対応 **—優先順位—**

様々な形で市場は変化。そして今後も
医療機関が医師を選ぶケースは増加



転職する上で希望をすべて叶えることは難しくなる



優先順位をつけて希望を整理する必要がある

優先順位のつけかたケーススタディ その1

悩めるA医師 30代 内科系 子育てと仕事の両立希望

《希望》

- ・ 残業を含め18時まで
- ・ 夜間対応なし
- ・ 週4日勤務
- ・ 年収1200万円以上
- ・ 自宅から20分圏内



◆優先順位【高】

- ・ 勤務時間
- ・ 夜間対応

◆優先順位【低】

- ・ 通勤時間



《最終転職先》

- ・ 17時終業（残業なし）
- ・ 夜間対応なし
- ・ 週4日勤務
- ・ 年収1400万円
- ・ 自宅から40分圏内

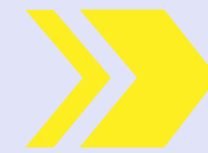
優先順位のつけかたケーススタディ その2

悩めるB医師 30代 外科系 年収UP・仕事と趣味の両立希望

《希望》

- ・ 最寄駅から30分圏内
- ・ 年収2,000万円以上
- ・ 夜間対応なし

- ・ 週4日勤務



◆優先順位【高】

- ・ 通勤時間
- ・ 年収1,500万円以上
- ・ 当直なし

◆優先順位【低】

- ・ 勤務日数



《最終転職先》

- ・ 最寄駅から30分圏内
- ・ 年収1,700万円
- ・ 当直なし
オンコール週1回対応

- ・ 週4.5日勤務

変化への対応 ー 求人に見極めポイントー



働き方改革に理解のある法人かどうか


採用が厳しくなる＝医療期間の淘汰が進む
働き方改革に積極的に取り組む法人が生き残っていくことで
医師にとっても長く勤務できる環境が整っていく





募集背景をチェックする

医師募集が出る＝人員不足で現場が困っている
→万全の体制で勤務ができない可能性も…
募集背景を聞くことで求められることや
自分とマッチするかの把握に役立つ

医師転職市場が変わっても生き残るためには

 **協調性やコミュニケーション力を磨く**
患者だけではなく多職種との関係構築も大切です

 **転職に関する希望や優先順位を整理する**
選択肢を広げるためにも整理は必要

 **年収の相場や自分の市場価値を知る**
相場を知ること後悔のない選択につながる



転職市場が変わっても生き残るためには

「転職に関する希望や優先順位」をまず考えてみましょう。

医師の年収相場や自分の市場価値を知りたい先生は…

日本メディカルキャリアの

医師専門
キャリア
無料相談

- 転職に関する優先順位がわからない
- 自身の市場価値について知りたい
- 今後のキャリアに悩んでいる
- 転職市場についてもっと知りたい
- 自分のキャリアプランを相談したい

無料キャリア相談

COMPANY DATA



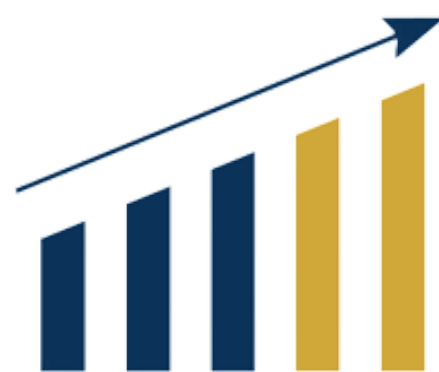
株式会社
日本メディカルキャリア

社名 株式会社 日本メディカルキャリア
設立年月日 2017年4月1日
資本金 1,000万円
本社所在地 〒150-0041 東京都渋谷区神南1-18-2フレーム神南坂3階
連絡先 TEL：03-5784-1575 FAX：03-5784-1615
代表者 代表取締役 落合 宏明
事業内容 有料職業紹介事業（有料職業紹介事業許可番号13-ユ-308417）
キャリア支援事業・ライフ支援事業

グループ会社 MRT株式会社



医師ベストキャリア



医師資産形成.com



医院開業バンク



薬剤師ベストキャリア

MEDICAL
LOUNGE